

## 大切な水

私の家では年末、大そうじをする。お風呂や流し台、窓ふきどれもそうじをするには多くの水が必要だ。私はお風呂そうじを担当していてシャワーから水を出しながらそうじをしていく。すると、突然シャワーの水の出口が悪くなり、ついには出なくなってしまった。あわてた私は母にそのことを伝えに行った。母は、

「タンクの中の水がなくなってるな。いつもは今日ほど使わへんから夜にためた分でいけんねん。」

と行った。その後そうじは中断した。ご飯の時にはもう水が出るようになったのでよかったです。でも、出なかつたらご飯の準備も後片付けもできないのでとても困るなあと思いました。蛇口をひねればすぐに出てくる水だけど、それには限りがあるということを実感した。

天理市立福住中学校 三年

水口 明香

そんな時、テレビできれいな水を飲めない使えない人たちがいるというのを知った。その人たちは水不足にも悩まされていて、地面を掘ってたまに出てくる水場に井戸を作りその水で洗いや洗濯をしていた。

「世界にはな、わしらみたいに安全な水で生活することができひん人らがいんねんで。せやのに日本は無駄遣いしたり汚染したりすんねん。」

と祖父が言った。私はその言葉にギクリとした。なぜなら、私は水道やシャワーを出せばなしにしていたりすることが多いからだ。それまで水のない生活のことなんてみじんも考えていなかった。けれど、今回のことである。考えるさせられた。もし、このことを水で困っている人たちが知ったらどう思うだろう。私がある人たちの側だったら、すごく

「ふぎけるな！」と言いたくなるし、もつと水を大切にしたいと思う。だから、私はそれ以来、水の出しっぱなしや無駄遣いをしないように心がけている。

現在、地球にはたくさん水がある。でもその水のほとんどは海水で私たちが利用できる水はわずかしかない。その水も、このまま無駄に使い続けるようであれば、今ではなくてもこの先の未来でいつかなくなってしまうかもしれない。いや、水の代わりになるものが出てくることはない限りなくなってしまうのである。

「蛇口をひねればすぐ水がでてくる」とか「いつでも水はある」などの考えは、今はそれでいいかもしれないが、未来にまで水を使い続けていこうとするならば、その考えを改めなければならぬ。安全な水が使えない人々がやっっているように、少しずつ、今必要な分だけを使うようにしたら良いと思う。これが、今、私にできる「水を大切に使う」ということだ。

この世の中、水と関わりがない人はいないと思う。そして水に対してそんなに考えて使

っている人も少ないと思う。だから、無駄遣いをしたり、汚染してしまったりする。私たちが利用できる水は本当にごくわずか。そのわずかな水を私たちは気付かないうちにさらにさらに少なくていっている。水に関わっている人、全員が水が無駄なく使い続けるために一人一人が水について考え、自分でできることを探し、実行していかねばならないと私は思う。